



写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 29 □

銭屋川の高麗橋付近

再架された石造アーチ橋

22日付で掲載した第29回の内容に誤りがありました。修正して再掲します。

明治30年代、中島川本流の銭屋川（別名一ノ瀬川）に架かる、八幡町と伊勢町をつなぐ高麗橋付近。石造アーチ橋である最初の高麗橋の建造は承応元（1652）年、長崎在住の唐人による架橋と伝えられている。名前は伊勢町の旧町名、新高麗町に由来する。文禄慶長の役で朝鮮から連れ帰った朝鮮人の陶工は最初、

高麗町（現万屋町）に住んだが、人口増加のためこの地に新高麗町がつくられた。この石橋は水害でいったん壊れたが、慶応2（1866）年、麴屋町の商人池島正助により再架された。昭和57（1982）年7月の長崎大水害での被害は免れたが、昭和60年の河川改修工事のために解体され、今はコンクリートの新高麗橋に架け変わっている。文化財として貴重な石造の旧高麗橋は両端の石材を新しく補い、失われていた高欄を復元して、平成5（1993）年に西山ダム河川公園に移築されている。写真左の大松は伊勢宮神社。新高麗町時代にすでに天照皇大神を祭る小祠があったが、クリシタンにより破壊された。地域の人は禁教後の寛永5（1628）年、唐津出身の天台宗修験、南岳院存祐を神主として招き、同16年に神社を再建した。この時、新高麗町は伊勢町に改称されている。その前の高い木柱は火の見やぐらである。半鐘からぶらさがるロープは、火急に下から引つ張つて鐘を鳴らすためと思われる。河床には石積み水溜堤

が、右縁には水車に水を流す導水路が築かれている。水車は穀物の脱穀、精米、粉ひきに用いられ、この時代も大活躍していた。河原では大工職人が角材を木挽きしている。沿道に立ち並ぶ電信柱は明治30年代の雰囲気を漂わせている。

この写真について22日付の紙面で、中島川の支流「堂門川」とくに架かる「桃溪橋」として紹介しました。しかし、その水車小屋を経営していた米穀商の「子孫、嶺川 光さまからご指摘を頂き、「銭屋川と高麗橋付近」であることが判明しました。水車は戦時中まであったそうです。嶺川さまに感謝するともに、読者の皆さまにおわびして訂正いたします。

（長崎外国語大学長）



長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します